

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296900036		
法人名	有限会社 長寿松		
事業所名	グループホーム あんしん白子		
所在地	千葉県長生郡白子町北高根3906-4		
自己評価作成日	平成26年4月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成26年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で安全に安心して生活を送って行けるよう、支援を提供していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあんしん白子」は、のどかな自然に囲まれた環境の中にある。施設はエレベーター付きの2階建てとなっており、バリアフリーで安全に生活できる造りとなっている。地域との関わりを強く意識しており、積極的に挨拶をするよう努めると共に、自治会の加入や地域行事への参加等、地域との交流を図っている。また、法人内の他施設との交流や系列法人の特別養護老人ホームとの連携を図っており、入居者の生活の活性化・入居者及び家族のニーズに合わせた支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は利用者様の尊厳を第一に考える。言葉による拘束はしていませんか？。利用者様への声掛け、会話は丁寧にしていますか？。お互いに注意し合っている	「地域福祉への貢献」「個人の尊重」「安全・安心」等を主眼とした法人理念を掲げている。理念を事業所内に掲示していると共に、「地域との関わりを意識する為の文書」や身体拘束排除マニュアル等を掲示し、職員の意識向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶してコミュニケーションを取るようになっている。	地域住民と積極的に挨拶を交わすよう通達していると共に、自治会に加入し、回覧板に事業所の名前等を記載している。また、地域ボランティアの受け入れや法人の他施設との交流機会を設けており、外部との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に貢献できる様、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催が定例化されていない。外部評価の結果を報告できる様、準備を進める。	市職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・地域消防団員・入居者家族等を構成員として、年1～2回、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行っており、施設サービスの向上に繋げている。	運営推進会議の定例化を図り、施設理解の促進及び地域との関わり強化に役立てて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者や福祉課の担当者に相談を行っている。	日ごろから市に対して、業務における相談や報告等を行い、連携を図っている。また、地域のグループホーム連絡会に加入し、会議・研修を通じて、サービスの質の向上を図る機会を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」をプリントして配布し、具体的な禁止行為を掲示している。日中は施錠はしていない。夜間玄関のみ施錠している。	身体拘束排除及び高齢者虐待防止におけるマニュアルの配布・研修の参加を通じて、職員への理解を促進している。入居者の状況や家族の希望を確認し、入居者の自由に配慮した生活の支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員を教育すると共に、資料等を活用し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば、出席させたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた利用者家族に近況報告をしながら、意見、要望を聞いている。	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望等を直接確認している。挙がった意見・要望等においては、申し送りノートを活用しながら職員全員へ周知し、適切な改善を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のチームワーク、信頼関係を築いていくために職員の全体会議を今後も継続するように取り組む。	今年度より、施設会議を定例化し、職員からの意見・要望等を確認する機会を設けている。また、継続して、管理者が職員からの意見・提案等の確認も行っている。必要時には、申し送りノート等を活用し、職員間での情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。給与水準については、現場で査定するシステムになっていない為、反映されない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があれば、積極的に参加させている。又、取引業者の協力を得て内部研修を行うようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加している。又、系列法人の運営する施設訪問を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思が確認できる方は、要望に添える様努めている。できない方は、表情から安心を感じられるよう努めている。確認できない方については、表情から安心を感じられるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートや家族との話し合いで、不安・要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況の変化に応じ提案する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者の立場にたった対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況説明をし、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方とも職員が良い関係を築き、気軽に立ち寄ってもらっている。	家族・知人・親戚等の訪問を随時行っていると共に、行きつけの理美容店や自宅への一時帰宅等を支援し、馴染みの関係継続に配慮している。その他にも、ボランティアや法人の他施設との交流を通じて、新たな馴染みの関係が築けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が成立する事は少ないが、相性を見ながら、席次に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応できるよう準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から意向を聞いたり、日常の会話の中から把握せきよう努めている。	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医師の意見書・他サービスからの情報提供等を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、計画作成担当者・職員間で情報の共有に努め、入居者の意向及びニーズを把握できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供を参考にして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン・排尿・排便状況の把握や、歌唱・囲碁を勧めて様子を見る等して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の提案やアドバイス等により、本人や家族の求める介護計画に近づくよう作成している。	日々の記録や会議等にて情報交換を行いながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。	

【千葉県】グループホームあんしん白子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・掲示板等を参考に職員間で情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ職員からの提案などを取り入れながら、柔軟な対応ができるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と地域の関わりが密になるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診も対応もしている。	希望のかかりつけ医への受診を行っており、希望に応じて、職員が通院の付き添いを行っている。看護師職員を配置しており、日々の健康管理や医療処置を行っている。その他にも、定期的に歯科往診を行っており、適切な口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤であるため、情報交換や気付きを次回予定日まで取りまとめて報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師・看護師とコミュニケーションを取って、入退院に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「緊急時及び終末期の対応」をいただいているが、家族の心境の変化を考慮し、一定期間を経て再度確認するようにしていく。看取り指針はあるが、職員への教育は十分とは言えない。	終末期・重度化における施設方針を説明していると共に、緊急時における対応について、希望を確認し、同意を得ている。必要時には、家族・医師等と相談しながら対応を検討している。また、他施設や他サービスの切り替えが必要となった場合にも、円滑に移行できるよう連携体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルはあるが、判断が難しい時には、看護師に常時連絡が取れる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間対応の避難訓練を行っていないので、安全な訓練を行うための施設整備を含め準備中である。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を行っている。訓練では、夜間想定訓練・消防署立会い訓練等を行っており、非常災害時における避難方法を確認している。また、運営推進会議に地域の消防団員が出席しており、非常時における協力体制の強化に繋げている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応が十分にゆきとどかないこともある。全職員が共通の認識をもって対応出来る様促す。	施設会議にて、接遇やプライバシー保護に関する事項を議題に挙げ、職員への周知を図っている。また、入居者の希望に応じて、同性介助を実施する等、入居者のプライバシーに配慮している。	入居者と職員の関係性を考慮し、言葉遣い・対応方法を含めた接遇の確認・立ち返りを図ると共に、排泄・入浴時における入居者のプライバシーへの配慮をより強く意識した支援の実践を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せる利用者は多くはないが、こちらから提案をしたり、その中から選んでもらうようにしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めてなく、自由に過ごしている。読書・テレビ・ラジオ等）天気の良い日には、日当りの良い部屋で日光浴を勧めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から持ち込まれた衣類の中で組合せ等に気配りをしている。お化粧の好きな利用者は時間がとれる様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、準備や片付けの出来る利用者はいない。職員は一人ひとりの好みを把握できるよう努めている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを共同で行っている。献立においては、系列法人の栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に行事を企画し、季節や入居者の希望を取り入れた特別職の提供を行っており、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列法人の栄養士が作成した献立を基にしている。食事や水分の摂取量は、ケース記録に記入し、利用者の状態の変化に応じて、食事形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回、歯科医師の訪問診療を受けている。一人でケアできる利用者は、時間がかかって声かけと見守りで対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じたトイレ誘導を心がけている。オムツ・パットの見直しや、メーカーの講習会を行っている。	入居者一人ひとりの排泄状況を記録しており、個々の排泄パターンや状況判断にてトイレ誘導を行い、適切な排泄支援に努めている。また、乳酸飲料の提供や水分・食事内容を工夫すると共に、看護師に相談しながら、適切な排便コントロールに努めている。排泄パターンについては、会議の議題に挙げ、職員間で情報が共有できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェック、乳酸菌飲料、植物繊維の摂取を心掛けている。一人ひとりの排便状況をチェックし、自然排便のない時は医師・看護師に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームとしての入浴日や入浴時間帯はある程度の決まりはあるが、入浴者・順番等はその時の利用者の状況に応じて対応している。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保している。入浴リフトの使用が可能となっており、入居者の身体状況に応じた入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコン整備しており、日中居室で休まれる方や、夜間の室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしている。服薬の用法や飲ませ忘れ等の対処法はプリントを用意した。服薬時はスタッフ二人にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞の折り畳み等をお願いしている。一緒に歌を歌ったり、散歩に出たりの気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事には、外出できるように努めている。個別の急な外出は対応できるよう努力している。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施し、外出機会を設けていると共に、定期的に行事を企画しており、戸外での楽しみを支援している。また、法人内の他施設を訪問する等、外部との交流も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者は少ないが、預貯金の引き出し等、本人自らが出来る人は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通販での買い物や手紙のやり取り等支援している。携帯電話を使用する人は、話しやすい場を用意して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十八畳のリビングに畳の間やソファ等々を設けてあり、テレビを見たりそれぞれ過ごしている。	施設は2階建てでリビングから廊下を渡って1周できる造りとなっている。リビングには、ソファ・椅子・テーブル・和室スペースが設けられ、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、ウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気を楽しめる環境も整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側の一部屋を使い、気の合った利用者同士、日光浴を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で入居前まで使っていた物を持ち込んでいただいている。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、入居者の身体状況・家族の意向等を考慮し、ポータブルトイレやセンサー等の福祉用具の導入を行っており、安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平成23年の建築で、ほぼバリアフリーとなっている。玄関のみ段差があるので、声掛け・見守りで対応している。		